

「社会に貢献する女性」を訪ねて

Vol.09

2015.12.26

水戸女子高校は、長い歴史の中で学校の仕組みや制服などが変化してきました。しかし、「社会に貢献する女性の育成」という建学精神に基づく指導は変わっていません。

それでは、水戸女子高校の卒業生がどのように社会で頑張っているのでしょうか？卒業生にインタビューをしてみました。

第9回は寺田真未さんです。寺田さんは平成19年度に入学し、普通科進学コース（現教養進学コース）を選択しました。卒業後は水戸短期大学経済情報学科に進学しました。現在は有限会社朝野目盛研究所に勤務をされています。

インタビュアー：生徒募集強化委員会 西内豊人

「少人数」がポイントでした。

今日はインタビューを受けていただきありがとうございます。早速ですが、水戸女子高校を選んだ理由は何ですか？

中学校3年生の時に吹奏楽部の見学に行き、当時の部員は30名弱^{*1}で、少人数が良かった私はいいなと思いました。あと、水戸女子高校に通っていた姉の影響もありました。

水戸女子高校での高校生活は、実際どうでしたか？

高校生活はめちゃくちゃ楽しかったです！特に高校2年生の時のクラスがとても良かったです。私には授業も合っていて、吹奏楽部の活動も充実していました。

本当に楽しい高校生活だったのですね。寺田さんは高校卒業後に水戸短期大学経済情報学科^{*2}に進学します。進学先を決めた経緯などを教えてもらえますか？

高校3年生に進級した頃から「医療事務」を目指そうかと思い、就職しようか、専門学校に行こうか、悩んでいました。進路を決める三者面談の時に、担任の先生から水戸短期大学経済情報学科に医療事務コースが新設されたというアドバイスをもらい、実際に見学に行きました。学校の雰囲気も良く、少人数制ということもあり、水戸短期大学経済情報学科への進学を決め、無事合格しました。

*1： 現在の吹奏楽部は、約70名の生徒が所属している。

*2： 水戸短期大学は2012年に開学した。



仕事終わりにもかかわらず、水戸女子高校でインタビューを受けてくれました。



約1時間のインタビュー後は、高校時代の思い出話に花が咲きました。

シフトチェンジをした短大時代。

水戸短期大学での2年間はどうでしたか？

この2年間は、短大にサークルもなかったので、ひたすら勉強をしていましたね。

医療事務の資格は取得したのですか？

2年生になった頃、医療事務の求人はどれくらいあるのか調べてみたら「ない」ということが分かりました。そこでシフトチェンジをし、色々アタックしながら自分でできそうなものを考えていくことにしました。公務員の試験も受けましたし、冠婚葬祭関係の就職試験も受験しました。

そんな時、朝野目盛研究所の受験の話が舞い込むわけですね。

水戸女子高校の先生から求人の話をもらったのですが、本当に運が良かったと思っています(笑)もともと細かいものを作ることが好きだった私は、とても興味がありました。実際に会社を見学していいかなと思い、受験をすることを決めました。

本気を出していますか？

朝野目盛研究所から採用され、仕事を始めるのですが、苦労したことはありますか？細かい作業が好きだと言っても、はんだごてなどの機材を今まで使ったことはなかったので大変でした。また、初めて触れる機械の扱い方に慣れるのに苦労したり、拡大鏡をずっと見ながら仕事をしていると酔ったりすることもありました。ただ、2・3週間で慣れました(笑)

2・3週間で慣れてしまうってすごいですね。他に仕事をして感じたことはありますか？

先輩の技を盗むようにしましたね。ただ、先輩の技が必ずしも自分が使ってうまくいくとは限らないので、工夫をするようにしました。

仕事をしている上で何か心掛けていることはありますか？

私も後輩に教えることがあるのですが、「じゃあ」っていう人はダメですね。「じゃあ、教えて下さい」という人は工夫をしないですね。私がしている仕事は「過程」も大事だし、「結果」も大事なのですが、それがなかなか分かってもらえないですね。いくら「過程」が良くても、「結果」として不良部品を作れば損害賠償につながりますしね。どちらも大事にしないといけないと思っています。

最後に在校生にメッセージをいただけますか？

まずは、高校の先生の言っていることは間違っていたかったということですね。例えば、清掃の時に自分たちは清掃をしたのにもかかわらず、「清掃をやっていない」と注意を受け、その時は納得できませんでした。ただ、実際に働き始めて視野が広くなってくると、第三者から見て出来ていないと見られたらそれはダメだということが分かりました。あと、短大の先生が他の生徒を注意していた時、「本気の出し方を知らない奴が何を言っているんだ」という言葉が心に響きました。手を抜くことは簡単ですが、ここぞという時に本気を出せるかどうかって大事だと思います。口先だけで「本気は出せる」ではなく、いつでも本気に取り組むことが大事だと思いますので、頑張ってください。

本日はありがとうございました。

寺田さんと約1時間のインタビューを行いましたが、顔つきが「大人の女性」になっていたのが印象的でした。また、言葉一つ一つが20代前半とは思えないような自信に満ち溢れ、在校生にも見習ってほしい姿だと感じました。寺田さん、これからも頑張って下さい！

「『社会に貢献する女性』を訪ねて」は年3回の発行を予定しています。次回もお楽しみに。